

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第6回

行方さん

ドバイで働く寿司職人の行方さんという方がいるらしいと聞いたのをきっかけに、行方市内に行方という名字の方が住んでいたなら…を久しぶりに考えた。小さいころから、ときどき思いを巡らすテーマだ。同級生や近所の人など、私の知る範囲では、市内に行方さんという方はいなかったからか、架空の人物をイメージしてみたりしたものであった。

その後東京に出て、仕事や友人関係など各地出身のいろんな人に出会ったが、これまで一度も行方さんに出会わなかった。

行方憲武さん。71歳。五年前に行方市の霞ヶ浦沿いの空き家を購入して東京都から移住。今もこつこつその家をDIY中だ。移住の動機は、行方市が行方姓の発祥の地らしいとネットで知り、親近感が沸いたこと。出身は静岡県。風貌は、あのタモリさん似で、市内のある崖を散策したときに「ブラタモリの撮影できたんですか？」と声をかけられた。ごくたまにやってくる、都内暮らしの妻に、裏庭で自作した野菜を食べさせて自慢したいのだが、なかなかうまく作れない。農業のベテラ

ンのご近所さんにアドバイスを乞いたいが、なかなか尋ねられないでいる。と、架空の行方さん像がいろいろと膨らむのだけれど、名字の読みを「なめがた」「なめかた」のどちらにするか、決まらないでいる。名字の一部に濁点がつくのはどちらかというと東日本方面が多く、つかないのは西方面が多いらしく、実は「なめかた」なのだけども「なめがた」と呼ばれても否定はしない、みたいな人物像がいいか、どうか。そんな話を、むかし、新人看護師だった私を「こはやし！」と呼んでかわいがってくれた上田先輩と話したい。このテーマは、あの人とぜひ話したいVっていうようなこと、ありますよね。

小林 光恵さん



今回の文を書いていて、「きみと話がしたいのだ」(田村隆一)という詩を思い出しました

行方市出身。つくば市二の宮在住。今年は、いろんな種類のぶどうを食べました。瀬戸内ジャイアンツ、ハートランドなどなど。美味しかった。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム⑥

【新規就農への道のり】

私は、新規就農をミッションとし活動中ですが、各地域の地域おこし協力隊は、観光分野、スポーツ振興分野など、それぞれ異なるミッションで活動をしています。

その中でも、茨城県内の農業ミッションの隊員は、卒業された隊員も含めると50人以上が存在しています。

休日を利用して、県内で新規就農された先輩隊員や、事業継承された先輩、現在協力隊として研修中の隊員など、10人近くの方の圃場を見学させていただき、新規就農や研修の進め方についての相談をさせていただいています。

また、茨城県は農業産出額が全国3位で、日本でも有数の農業が基幹産業の県でもあるので、県全体の農業PRもしていきたいと、隊員同士で未来の展望についても話しています。

新規就農への道のりは優しい道ではありませんが、行方市の皆さんをはじめ、たくさんの方との交流を広げ、知識や技術の研鑽(けんさん)に努めていきます。

(次号は、田沼絢子が担当します。)



▲那珂市でサツマイモ苗の定植のお手伝い

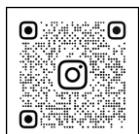


▲笠間市で県内の協力隊とハウス組み立て勉強会



▲佐藤 晶 隊員

【令和5年11月1日～現職】
新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施予定。



▲ Instagram アカウント : namegata.city.kyouryokutai.st